

館の使命	千葉県立美術館は、千葉県ゆかりの美術資料を中心として体系的に収集し、保管して後世に継承するとともに、「みる、かた る、つくる」活動により、新たな知見を創造し、美術情報を発信します。さらに、美術活動をとおして、美術を愛好する人材を育 成し、県民の学習及び地域づくりを支援します。
------	--

評価項目	7. 展示 ②企画展示(入場料の変更が必要な展示) 開館40周年記念特別企画展「平山郁夫展－仏教伝来の軌跡、そして平和の祈り－」
項目概要	使命に則した事業であるか

評価項目	視点例	目標・指標	実績・内容	所見・指摘事項
①事業目的	・本事業の目的、企画の狙い等は、館の使命及び県民ニーズに照らし適切に設定されているか	①平山郁夫の芸術の軌跡とその旅路を紹介する。	・平山郁夫が生涯のテーマとした仏教伝来とシルクロードや日本各地を描いた作品93点を一同に展示し、質量共に充実した内容となった。 ・画題や地域性を考慮して作品を6分類し、地域ごとの展示構成を中心とした。 ・本画だけでなく、平山郁夫の特徴でもある素描作品も配置して、マチエールの変化が楽しめる作品配置とした。	【西村】 企画展の目的や狙いは大変良い。知名度もあり、幅広い年齢層の人々を対象とすることができる。 【村井】 画題や地域性をテーマにすると画家の軌跡や画業への取組姿勢や表現の特徴が伝わりづらい傾向がある。それを補うのが最後の映像コーナーだけでは少なかったと思う。 幅広い方々に見てもらい、さらに満足してもらえるためにはもっと工夫が必要であったと思う。
		②多くの県民に対して情報を提供している。	・再開館初日に主要新聞6紙の千葉県版に新聞広告(5段1/2)を掲載した。 ・主要作品を紹介するカラー連載記事を産経新聞千葉県版に掲載している。(毎週月曜日、計6回) ・千葉県民日より、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ等への幅広い情報提供と、ポスター掲示やチラシ配布に努めた。	【村井】 取組内容は分かるが、その効果が記されておらず、判断できず。
		③幅広い年齢層の来館者が楽しめる工夫をする。	・高齢者の来館が多いことが予想されたため、グラフィック等の会場工作の工夫や開幕後の対応について、事前に検討した。 ・家族連れや低年齢層の来館対応について検討し、ワークシートの作成を行った。 ・幅広い年齢層の集客を図るため、小学生対象のワークショップや高校生によるミュージアムコンサートなど、関連事業の充実に努めた。 ・平山郁夫以外の作品も楽しめるように、多彩な分野の美術作品を鑑賞できる展覧会として、「千葉県立美術館名品展」「彫刻」を企画した。	【西村】 キャプションの字体と大きさにはもう少し配慮を要する。 【村井】 60代以上の来館者が多く、若い世代が少ないのが大変残念に思う。同時開催のアートコレクションで若い世代へアピールする方策をとるべきではなかったと思う。 取組内容は分かるが、その効果が記されておらず、判断できず。
		④県民ニーズを反映している。	・平山郁夫は戦後日本画壇を代表する画家であり、千葉県内では初めての本格的な展覧会(内容、点数等)となった。 ・千葉県民アンケートで不満度の高かった「優れた文化・芸術に触れ、感動できる機会」を提供することができた。	【西村】 企画展としての開催期間も長いので、多くの県民に作品に触れる機会を与えることができる。 【村井】 リニューアル後の企画展としてふさわしく、本当に県民ニーズを反映した企画内容だったのかは疑問が残る。 →本当にそう思うのか。その根拠を示してほしい。見に来た人の満足度が高いでは説明にはならない。

評価項目	視点例	目標・指標	実績・内容	所見・指摘事項	
②事業内容	・目的・ねらいを正しく反映する工夫がなされているか	①展覧会の趣旨を踏まえ、展示室や作品に応じた展示方法を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> ・画題や地域性を考慮して作品を6分類し、地域ごとの展示構成を中心とした。 ・薬師寺の壁画を基にした「大唐西域画」コーナーに壁画が描かれた建物の模型を参考展示し、室内での鑑賞を仮想できる展示空間づくりを試みた。 ・LED照明の導入に伴い、偏光レンズ等も併用して、高質な展示照明に努めた。 	<p>【西村】 以前の展示会場の照明に比べると数段改善され、それぞれの作品が鑑賞しやすくなった。</p> <p>【村井】 展示室に合わせた作品選定、展示はなされていたと思う。室内で観覧をイメージさせる展示空間も興味深いものであった。展示空間の使い方はうまかったと思う。照明に関しては、展示ケースに映り込んでしまう展示室があったが、以前の暗いという課題は解決できたと思われる。映り込みに関しては、仕方ないではなく、問題解決のための工夫を検討してほしい。</p>	
		②平山郁夫の作品や業績について理解できる内容となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・会場内に平山郁夫の著作から抜粋した短文をパネル化して展示し、作家や作品理解の一助とした。 ・平日の集客が想定されたことから、日曜日以外に平日にも担当学芸員によるギャラリートークを設定した。(ギャラリートーク6回開催予定。うち平日は3回。初回の平日は60人参加) 	<p>【西村】 パネルの掲示を見ると、作品をより理解しやすくなっている。</p> <p>【村井】 もう少し工夫がほしかったと思う。</p>	
	・目的・ねらいを正しく反映する工夫がなされているか	③幅広い年齢層の来館者が楽しめる工夫をしている。	【高齢者対応】	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者層の来館や会場内の混雑、照明制限等が想定されたため、パネルやキャプションの大きさやフォントサイズを通常よりも大きくした。 ・会場内の混雑が予想される土日に、会場内の休憩用椅子を増やしている。 	<p>【西村】 キャプションについては改良の余地がある。</p> <p>【村井】 文字の大きさは改善されたと思うが、一部文字が細く読みづらい箇所もあった。巡回展だからとあきらめずに、自分たちで美術館の展示空間に合うものを作ることも検討してほしい。運営側でなく、観覧者の立場に立った展示づくりを基本としてほしい。</p> <p>取組内容は分かるが、その効果が記されておらず、判断できず。</p>
			【低年齢層対応】	<ul style="list-style-type: none"> ・作品や画題、日本画技法について学習できるワークシートを会場内に設置し、展示内容への理解の促進を図った。 	
		【関連事業】	<ul style="list-style-type: none"> ・日本画への理解と関心を深める一助として、日本画技法について体験する小学生対象のワークショップ「はじめての日本画体験」を予定している。(競争率4倍) ・会期中のミュージアムコンサートの開催回数を増やし(1回→3回)、美術鑑賞以外の芸術プログラムを用意した。また、選曲に当たっては、平山郁夫の画題との関連を重視した。 	<p>【西村】 会期中の関連行事については、ギャラリートークやミュージアムコンサートと工夫されている。</p> <p>【村井】 取組内容は分かるが、その効果が記されておらず、判断できず。</p>	
		【その他】	<ul style="list-style-type: none"> ・40年の収集活動を振り返る「千葉県立美術館名品展」と「40年の歩み展」を併催し、コレクションやこれまでの活動の紹介に努めた。 		

評価項目	視点例	目標・指標	実績・内容	所見・指摘事項
③満足度	・入場者は、満足してくれたか	①入場者目標人数: 20,000人 (有料入場者予定人数: 9,350人)	・入場者数:18,021人(3/4現在) ・有料入場者数:5,142人(3/4現在)	【西村】 大方の入場者は満足のいく展示である。 【村井】 平山郁夫展の満足度はたかかったが、アートコレクションや施設に関する満足度が高いとは言えないことが今後の課題。
		②入場料収入目標値: 7,480千円	・入場料収入:4,123,940円(3/4現在)	
		③アンケート調査での「非常に良かった」「良かった」の回答数が80%以上。	・「満足」「やや満足」の回答が82.9%(2/26現在)	【村井】 サービス部門は、すぐにも改善を要する。ショップは拡張されず、レストランはメニューが少なくなり、オペレーションも悪いでは問題にならない。リニューアルに期待していた県民を裏切る結果だ。設備や建築躯体の構造面での改修が目的と説明しても、県民は納得はしないだろう。美術館全体の評判を落とす可能性がある。ハードではなく、運用で改善できるところが即刻改善してほしい。
④運営	・費用対効果の高い効率的な運営がなされていたか。	①友の会やボランティアが参画し、職員と共に役割を分担して活動している。	・友の会会員やボランティアを通じて、ポスター掲出やチラシ配布などの展覧会広報を行った。 ・友の会と連携して、平山郁夫展に併せたミュージアムショップの商品展開やオリジナル商品の開発などを行った。	【西村】 今までになく周辺・近辺の様々な企業や美術館と連携や協力が取れている。 【村井】 取組内容は分かるが、その効果が記されておらず、判断できず。
		②企業や他の教育機関等との連携・協力関係が良好である。	・千葉県美術館、ホテルポートプラザちば、千葉ポートタワーと優待の相互協力を行った。 ・広報の一環として、オークラ千葉ホテルが主催する「絵画とランチを楽しむ会」の企画運営に協力した。(2/17催行予定)	視点例が、「費用対効果の高い効率的な運営がなされていたか。」だけしか書かれていないのでは、ボランティアや友の会に協力してもらったこと、連携や協働関係を築くことが無償の労力を得るための方策のように見えてしまう。 「地域文化を共創し、県民もまちも共に成長できる取組であったか。」という視点に加筆すべきではないか。
		③関連事業を実施し、集客を図る。	・日本画への理解と関心を深める一助として、日本画技法について体験する小学生対象のワークショップ「はじめての日本画体験」を予定している。(競争率4倍) ・会期中のミュージアムコンサートの開催回数を増やし(1回→3回)、美術鑑賞以外の芸術プログラムを用意した。また、選曲に当たっては、平山郁夫の画題との関連を重視した。 ・平山郁夫の足跡をより具体的に理解すると共に、宣伝効果も考慮して、単なる講演会ではなく、平山郁夫夫人を交えた対談を開催することとした。	

評価項目	視点例	目標・指標	実績・内容	所見・指摘事項
④運 営	・費用対効果の高い効率的な運営がなされていたか。	④展覧会の趣旨や過去の広報実績を踏まえ、効果的な広報を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・当初予定していた車内吊りポスター掲出を取り止め、新聞広告のスペース増を図った。 ・再開館初日に主要新聞6紙の千葉県版に新聞広告(5段1/2)を掲載した。 ・再開館前日に一般県民公募による内覧会を開催し、事前広報に努めた。(281人参加) ・主要作品を紹介するカラー連載記事を産経新聞千葉県版に掲載している。(毎週月曜日、計6回) ・千葉県民だより、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ等への幅広い情報提供と、ポスター掲示やチラシ配布に努めた。 ・駅貼りポスターの掲出場所を可能な限り確認し、効果的な掲出場所の確保に努めた。 	
		⑤回収率や分析効率を高める工夫をしたアンケート調査を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでのアンケートを見直し、新たにアンケート設計を行った。 ・閉館後、庶務課・学芸課・普及課職員がアンケートの記載内容を確認し、指摘された事項について速やかに対応するよう努めている。(例:館内地図の配布、順路表示の増設、レストランやミュージアムショップとの打合せなど) ・会場内や駐車場の混雑を想定して、事前に監視員の増員や駐車場整理要員の確保などを行った。 	

総合評価

段階評価	所見・指摘事項
4.0(西村) 2.0(村井)	<p>【西村】 総体的には非常に良く考えられた企画展である。女性の学芸員の方をはじめ、学芸員の方々が細かなところまで配慮されており、リニューアルされた照明装置も寄与している。また、これ程多くの作品を集められた展示ができたことは、企画展の成功につながったと思われる。</p> <p>【村井】 リニューアル後、最初の展覧会として果たして「平山郁夫展」がふさわしかったのか、そこから疑問に感じる。千葉県立美術館の今後の取組姿勢や自館のコレクションの価値を発信する絶好のチャンスだったはず。もっと幅広い年齢層が集える企画内容にすべきであったと思う。 館員はそれぞれ頑張ったと思う。その点は評価したいが、全体の戦略がないのが問題だ。県政としても、サービス部門を軽視するリニューアルを選定した責任があると思う。</p>

評価の判定基準 4:高く評価できる 3:評価できる 2:部分的に見直しが必要 1:全面的に見直すべき

対応

<p>指摘のあった点に関しましては、以下の通り対応いたします。</p> <p>1 幅広い年齢層が集える企画内容にすべきとの指摘については、アンケートで得られた県民のニーズをテーマとした企画や「親と子」、「親と子と孫」や「若者」などを対象とした企画、社会的に注目を集めている事例をテーマとした企画などの検討に努める。</p> <p>2 全体の戦略がないとの指摘については、展示事業と普及事業では、県民ニーズを的確に把握しながら、相互に補完できるような一体的な実施に努める。 また、県民へのサービスでは、改善できるものは、早急に改善するとともに、施設管理受託者、レストラン運営者、友の会及び美術館の4者による定期的な連絡調整会議を開催し、今後の県民サービスの一層の向上に努める。</p> <p>3 コレクションの価値を発信することが不十分であるとの指摘については、来年度から実施するアートコレクション展において、収蔵作品の価値を様々なテーマで分かりやすく紹介していく。</p>
--